



卒論中間報告





少年非行とその立ち直りに対する大学生の態度



問題—少年非行

少年非行と非行少年概念の変容と特色

- 少年非行・非行少年の概念変化と非行・非行少年についての観念の変化を考察する
- 反社会的非行から逃避的な非社会的非行
- 伝統型非行から現代型非行

問題—メディア

メディア言説における「非行少年」観の変化

- 犯罪のリアリティがメディアにおいてどのように構築されるのか
- 報道される罪種が凶悪化するとともに、少年イメージが一般化されるようになった。

犯罪報道における少年犯罪の語られ方に関する社会学的研究

- 「普通の子」「凶悪な子」という二種類の書かれ方
- 「心の闇」が第四波(2000年代)の特徴
- メディア有害論の盛り上がり

少年非行等に関する世論調査（2015）

- 78.6%の人が実感として少年非行が増加していると回答
- ↑インターネットによるもの63%、感情のコントロールができないもの52.7%、凶悪化45.9%
- 減少している少年非行はない66.8%
- 非行を起こす経緯 保護者が教育に無関心51.5% インターネット依存45.3% 孤立44.4%
- 身の回りの問題 特にない43.7% いじめ19.1% 万引き15.2%
- 社会的に問題 いじめ53.5% 高齢者詐欺42.8% 殺傷事件42.4% インターネット41.5%
- 少年の問題点 感情をコントロールできない67.4% コミュニケーション53.5% 自己中心的51.8%
- 立ち直りに必要 相談できる環境54.3% 内省43.8% 規則正しい生活43.2% 社会的責任41.3%

先行研究—少年非行イメージ

少年犯罪に対する厳罰志向性と犯罪不安および被害リスク知覚の関連

- 理解不能イメージ→被害リスク知覚→犯罪不安→厳罰志向性

少年非行をめぐる社会的状況

- 非行の稚拙化
- 少年非行に新しさを見出そうとする言説
- 子どもの大人化

先行研究—犯罪・犯罪者イメージ

犯罪および犯罪者に関するイメージの研究

- 犯罪や犯罪者のステレオタイプ化されたレファレントについて明らかにする
- 8種類の犯罪行為に対して、犯罪者イメージを聞いた
- X二乗検定や因子分析やt検定を行った

先行研究—帰属

犯罪に対する帰属と量刑判断

- 犯人の年齢と罪種の違いによって、責任帰属と原因帰属、帰属と量刑判断の関連が異なるか
- 少年の方が成人よりも親への帰属が高く、地域よりも社会の方が帰属が高かった

少年犯罪の原因帰属に関する心理学的研究

- 少年犯罪の原因帰属を罪種別および年代別に比較する
- 人格領域・家庭領域・学校領域・地域領域・社会領域 少年の特徴を回答させた
- 親世代は原因帰属を多面的に行い、学生世代は罪の軽重で原因帰属の仕方を変えていた

先行研究—立ち直り

女子大学市絵における非行少年の更生に対するイメージと性格の関連

- 非行少年の更生について、形容詞対を用いてイメージ調査を行った。
- また、Big Five尺度を用いて性格特性を測定し、二つの関連をみた。
- 性格特性ごとにSD法の得点を一要因分散分析を用いて検討を行った。

非行少年の自伝分析に基づいた立ち直り研究について

- 家族支援体制と興味能力の対象←→主に自己内省、の二軸で立ち直り分析

目的

- 大学生が非行少年に対して抱いているステレオタイプを明らかにする
- 大学生が立ち直りに対して抱いているイメージを明らかにする
- 非行少年に対するステレオタイプが、立ち直りイメージに与える影響を検討する

研究意義

- 非行少年に対するステレオタイプの研究が少ない
- 立ち直りに対するイメージを調査した研究も少ない

- 非行少年・立ち直りに対する世間のイメージを明らかにすることで、
- 実情との乖離を把握し、正しいイメージをもってもらうために役立てる
- 世間に立ち直りの協力を要請する際に、世間の印象を知っておくことは有用

方法

- 大学生を対象としたオンライン質問紙調査
- 少年非行を2ケース(万引き・暴行)(仮)について、
- 少年非行・少年の特徴と、立ち直りに対するイメージを質問する

質問紙

- 特定の非行の好意の個人的・社会的な属性を聞く 岡田ら(1994)
- シナリオへの原因帰属 水口ら(2017)
- 「人格領域」「家庭領域」「学校領域」「地域領域」「社会領域」 板山ら(2009)
- 家族支援体制、興味能力の対象、自己内省 高村(2021)
- 立ち直りに必要なもの 世論調査(2015)

仮説？

- 非行少年に対するステレオタイプを明らかにする（探索型）
- 少年の個人的な資質・環境・周囲との関係性などが予想される

- 得られたステレオタイプと立ち直りイメージとの関連を検討
- 例えば、生得的な資質が非行の原因だと考えている人は、
立ち直りにネガティブなイメージをもつ、等

引用文献

- 女子大学生における非行少年の更生に対するイメージと性格の関連
- 松本千尋 跡見学園女子大学心理学部紀要 1 153-160, 2019-03
- 犯罪および犯罪者に関するイメージの研究
- 岡田 至雄, 安藤 仁朗 関西大学社会学部紀要 26,2,1-29,1994
- 少年非行と非行少年概念の変容と特色
- 金英淑 現代社会文化研究 37 43-60, 2006-12
- メディア言説における「非行少年」観の変化
- 大庭絵里 国際経営論集 39 155-164, 2010-03-31
- 犯罪報道における少年犯罪の語られ方に関する社会学的研究
- 崎山右京 竜谷大学大学院研究紀要. 社会学・社会福祉学 / 竜谷大学大学院社会学研究科研究紀要編集委員会 編 (20), 1-21, 2012
- 少年犯罪に対する厳罰志向性と犯罪不安および被害リスク知覚の関連
- 向井 智哉, 藤野 京子 実験社会心理学研究 2021年 60巻 2号 p. 100-112
- 犯罪に対する帰属と量刑判断—罪種と犯人の年齢による違い—
- 柳澤緩奈, 水口崇 信州心理臨床紀要 16 85-95, 2017-06-01
- 少年犯罪の原因帰属に関する心理学的研究—罪種と世代による比較—
- 板山昂, 加藤潤三 国際研究論叢 22,3,67-78,2009
- 大学生の卒業研究で実施可能な心理学研究の一考察—非行少年の自伝分析に基づいた立ち直りの研究について—
- 高村茂 四国大学学際融合研究所年報 2,7-20,2021
- 少年非行をめぐる社会的状況—子どもと大人の関係から—
- 伊藤茂樹 犯罪社会学研究 40,14-26,2015
- 少年非行等に関する世論調査
- 内閣府 2015